

# 投 稿 細 則

(平成 29 年 3 月 5 日改定)

(1) 原稿の記述は、次のとおりとする。

原稿の作成には、最新の学会誌、Journal of Pesticide Science (JPS) あるいは日本農薬学会誌 (農薬誌) のスタイルを参考にすること。

a) JPS の場合：依頼原稿を含め、投稿はすべて下記の電子投稿システムを利用して行う。

<https://www.editorialmanager.com/jpestics/>

Cover letter (必須), Manuscript (本文, 必須), Figure(s), Table(s), Others (Supplement など) を別々のファイルとして用意し、その順番で入力する。Manuscript は「.doc」あるいは「.docx」ファイルとして作成し、その記述は次のとおりとする。第 1 ページには、Running title (Short title, 75 文字以内), Title, Author name(s), Affiliation(s) を記入し、Corresponding author にはアスタリスク (\*) を付し、E-mail address と共にその旨を脚注に明記すること。第 2 ページ以降に Abstract, Keywords, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, (Acknowledgments), References, Figure Legends の順に記載すること。なお、Original Article と Technical Report の Abstract は 150 単語以内、Note と Short Communication では 80 単語以内にとりまとめ、Keywords は 1 あるいは数単語からなるもの 6 個以内とする。また、Note と Short Communication では紙面の制限から、本文は Introduction 等の見出しを設けずに記載することが好ましく、図表は合わせて 3 つ以内とする。Cover letter には、研究の意義および本学会誌の主旨に合った内容であることを記述すること。和文タイトルと著者名、所属機関名、および 400 字以内の和文要旨のファイルは Manuscript とは別に作成し、Others のアイテムとして送信すること。

b) 農薬誌の場合：査読の必要な論文の投稿は、電子投稿システムを利用して行うこと。依頼原稿は、編集事務局の指示に従い投稿すること。第 1 ページに表題名、著者名、所属機関名、および 40 字以内の短縮題目を記載すること。コレスポンディングオーサーへのアスタリスク (\*) と E-メールアドレスの付記は上記 a) に準ずる。第 2 ページには、英語で題目、著者名、所属機関名、所在地、アブストラクトおよび 1 から数単語よりなるキーワード 6 個以内を記載すること。アブストラクトは 100 語内外のものとし、本文と切り離しても意味が通じ、論文の主要な成果が具体的にわかるように記述すること。第 3 ページ以降において報文では、原則として、緒言、実験方法、結果、考察、要約、(謝辞)、引用文献の順に記載すること。短報、速報、技術資料の見出しについては特に定めない。

(2) 表題は内容を具体的に表わし、かつ簡潔であること。大題目にシリーズ番号を付して副題目をつけるような形式をとる場合には、副題目を上記表題とし、大題目およびシリーズ番号は第 1 ページの脚注に Part 1, 第 1 報のように表示すること。この際、前報の掲載場所を明示 (References に引用されている場合には See Ref. 1) のように記載すること。

(3) 所属機関の所在地の英名は、町、郡 (市)、県郵便番号、Japan の順に郵送可能な範囲で記すこと。

(4) 原稿の書き方は下記による。電子ファイルは、拡張子が .doc または .docx の形式で作成すること。

a) JPS の場合：A4 判縦長の様式 (左右 2.5cm の余白) で、Times New Roman (12 ポイント) の文字を使用し、約 85 字 × 25 行で作成し、各ページ下にページ番号を記入すること。本文は左側の片側寄せで印字し、各ページの左側にページごとの行番号を記すこと。なお、各項の冒頭を除き、改行は 5 字下げで打ち出すこと。刷り上り 1 ページは A4 判用紙 3 枚分に相当する。ただし、短報の場合は A4 判用紙 3.5 枚分に相当する。

b) 農薬誌の場合：A4 判縦長の様式で、32 字 × 25 行 (横書き) になるよう文字および行間隔を適当にとり作成すること。仮名は現代仮名遣いによる平仮名を用いること。ただし、生物名、国名、外国地名、外来語などは片仮名を用いること。各ページの中央下にページ番号を記入し、各ページごとの左側に行番号を印字すること。刷り上がり 1 ページは、A4 判用紙 3 枚分 (短報では 3.3 枚分) に相当する。

(5) 本文中の見出しには 1., 2., 3. を付し、小見出しには 1.1., 1.2., 1.3. を付すこと。

(6) 図表は、本文中には書き込まないこと。ただし、挿入箇所は本文原稿の欄外に、Fig.○, Table○と朱書きで指定すること。

(7) 図表は下記の書き方に従って、一つごとに別ページに記載すること。

- a) 農薬誌の図表は、投稿論文の場合は英文での作成を、解説などの場合は和文での作成を原則とする。
- b) 図について
- そのまま印刷に使用できるように作成すること。電子ファイルは「.ppt」、「.ppt」または「.ai」の形式とすること。拡張子が「.xls」や「.xlsx」の形式のファイルは受け付けない。
  - タイトルおよび説明は、Manuscript（本文）の最後に Figure legends として番号順にとりまとめること。図中の文字サイズは印刷時の縮尺を考慮して、少なくとも 11 ポイント以上を用いること。
  - 原稿は会誌掲載図版の約 2 倍（面積として 4 倍）に描くこと。ただし実際の縮図比は、編集事務局において決定する。周囲には少なくとも 3 cm 程度の余白を残すこと。
  - 図中の文字は Arial とし、文字サイズは印刷時の縮尺を考慮して、少なくとも 11 ポイント以上を用いること。ミスタイプの修正や製版の際のサイズ変更が可能ないように、他のファイル形式で作成した画像や線・図を用いる場合は、文字を除く部分を推奨されたファイル形式上に貼り付け、その後文字を直接書き込むこと。
- c) 表について：作成する電子ファイル形式は「.xls」、「.xlsx」または「.doc」、「.docx」とすること。ファイル形式が「.doc」や「.docx」の場合は、ソフトウェアの作表機能を用いて作成すること。横の文字数は印刷面の幅一杯、またはその半分を基準とすること。できる限り略字を用いて幅を短くすること。

(8) 有用な補足的情報は、下記のように付録資料としてオンライン上で公開できる。論文の紙面公表には大きすぎる有用な詳細情報（図、表、式の誘導、計算方法、スペクトル、その他）などの付録資料（Supplement）は、印刷される原稿ファイルとは別の Others アイテムとして入力する。付録資料は、印刷紙面には掲載されないが、電子ジャーナル上の論文には付随して公開される。本文中における引用は、付録図 S1（Supplemental Fig. S1）、付録表 S1（Supplemental Table S1）などとする。また、本文の Keywords の記載の次に、JPS の場合は“Electronic supplementary material: The online version of this article contains supplementary material, which is available at <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpestics/>”，農薬誌の場合は「付録資料は J-Stage の日本農薬学会誌で閲覧できる」と明記すること。

(9) 生物の種名は学名か一般名のいずれかを使用し、一般名を使用する場合は初出時において学名を併記すること。

(10) 本文中の数式は  $\frac{RT}{nF} \ln \frac{a}{a_0}$  のように書かず、誤解を招かない限り極力、 $(RT/nF) \cdot \ln(a/a_0)$  のように書くこと。

(11) 年月日は原則として西暦で、英文の場合は、Aug. 31, 2001 のように、和文の場合は 2001 年 8 月 31 日のように書くこと。

(12) 構造式はていねいに書き、立体構造の記号は必要ならば  $\text{---}$ ,  $\text{|||||}$ ,  $\text{.....}$ ,  $\text{---}$ ,  $\text{~~~~}$  の区別を明瞭につけること。

(13) 引用文献の記載の仕方

本文中の引用文献番号は該当事項の右肩に引用順に <sup>1,2)</sup> や <sup>3-5)</sup> のようにつけ、引用文献は文献欄に番号順に列記すること。引用文献の記載は、単行書以外は表題を省略して下記の例によること。なお、雑誌名は、JPS では Chemical Abstract, 農薬誌では日本化学総覧に規定されている略名に従うこと。本学会誌掲載の論文の引用にあたっては、JPS の原稿の場合、引用論文が英文および 37 巻までの和文のものは *J. Pestic. Sci.*, 38 巻以降の和文のものは *Jpn. J. Pestic. Sci.* を用い、農薬誌の原稿の場合、引用論文が英文では *J. Pestic. Sci.* を、和文では農薬誌を用いること。

a) JPS の例

i) 雑誌の場合

- I. Minamida, I. Aoki and T. Okauchi: *J. Pestic. Sci.* 18, 41–48 (1993).
- M. Tomizawa and I. Yamamoto: *J. Pestic. Sci.* 18, 91–98 (1993) (in Japanese).
- T. Fujita: *Jpn. J. Pestic. Sci.* 38, 2–19 (2013) (in Japanese).

ii) 書籍の場合

- I. Yamamoto and J. E. Casida (eds.): “Nicotinoid Insecticides and the Nicotinic Acetylcholine Receptor,” Springer, Tokyo, 1999.
- T. Yamada, H. Takahashi and R. Hatano: “Nicotinoid Insecticides and the Nicotinic Acetylcholine Receptor,” ed. by I. Yamamoto and J. E. Casida, Springer, Tokyo, pp. 149–176, 1999.
- J. K. Seydel: “Drug Design,” Vol. 1, ed. by E. J. Ariens, 2nd Ed., Academic Press, New York, Chap. 3, pp. 343–379, 1971.

iii) 特許の場合

- K. Ishimitsu, J. Suzuki and H. Ohishi (Nippon Soda Co., Ltd.): *Jpn. Kokai Tokkyo Koho JP 4-154741* (1992) (in Japanese).

2) Y. Ishiguri, H. Takano and Y. Funaki (Sumitomo Chemical Co., Ltd.): *Eur. Pat. Appl. EP 92961* (1983).

iv) その他

1) A. Elbert, K. Iwaya and S. Tsuboi: *Brighton Crop Protection Conference—Pests and Diseases*, 2-1, 21-28 (1990).

2) M. Sukekawa, T. Kishimoto, A. Nakayama, T. Tanaka and Y. Oohashi: *Abstr. 22nd Annu. Meeting Pestic. Sci. Soc. Jpn.*, p. 40, 1997 (in Japanese).

3) <http://www.jstage.jst.go.jp/article/jpestics/> (Accessed 21 Feb., 2008)

b) 農薬誌の例

1) 能勢和夫：農薬誌 9, 7-15 (1984).

2) 樽橋敏夫：農薬—デザインと開発指針，山本 出，深見順一編，ソフトサイエンス社，pp. 11-49, 1979.

3) 磯部邦夫：実験計画法入門，日刊工業社，p. 16, 1963.

4) 立松 晃，宮崎 浩，鈴木真言：医学と薬学のためのマススペクトロメトリー，講談社サイエンティフィック，1975.

5) 下鳥 均，鋤塚昭三：日本農薬学会第 1 回大会講演要旨集，p. 222, 1976.

6) 伊達豊隆，江口 潤，田口龍佑（科研製薬）：特公昭 58-42166 (1983).

7) 小林義郎，熊懷稜丸，蜂谷陽一（日本農薬）：特開昭 58-162507 (1983).

8) パイン・ウィリアム・ジェー，ローブリッジ・ジョン（ダイヤモンド・シヤムロック・コーポレーション）：特表昭 57-501328 (1982).

9) <http://www.jstage.jst.go.jp/article/jpestics/> (2008 年 2 月 21 日閲覧)

文献リストでは全ての著者を記述する。しかし、著者が 10 人を超える文献の場合は、印刷に際して日本農薬学会誌編集事務局が、英文原稿の場合は“*et al.*”，和文原稿の場合は「ら」と省略することがある。

(1 4) 脚注は、その事項の右肩にアスタリスク\*を付し、本文の引照頁の下方に線を引いて、その下に\*とともに記入すること。同一頁の中に数個の注がある場合には、\*の数によって区別すること。また表中の注は同様に a), b) …をつけること。

(1 5) 原稿においてイタリック，小キヤピタルなどの字体は明確に表現されていること。学名はイタリックとする。また，ギリシャ文字は誤植となりやすいので十分に注意すること。

(1 6) 数量の単位は原則として国際単位系 SI を用い，M (メガ)，k (キロ)，d (デシ)，c (センチ)，m (ミリ)， $\mu$  (マイクロ)，n (ナノ)，p (ピコ) を付して十進法をとる。略記単位には複数でも原則として s をつけない。なお，各学問分野で慣用的に用いられている単位で，SI 単位に書き換え難いものは使用しても差し支えない。単位・術語の略字などは次の例による。

長さ：m (メートル)， $\text{\AA}$  (オングストローム)

面積： $\text{m}^2$  (平方メートル)，a (アール)，ha (ヘクタール)

容積：L (リットル)，mL (ミリリットル)， $\mu\text{L}$  (マイクロリットル)， $\text{m}^3$  (立方メートル)

質量：g (グラム)，ton(s) (トン)

時間：sec (秒)，min (分)，hr (時間)，day(s) (日)，week(s) (週)，month(s) (月)，year(s) (年)

温度： $^{\circ}\text{C}$  (摂氏温度)，K (絶対温度)

濃度：M (モル濃度)，%，ppm，mg/mL， $\mu\text{g/L}$ ，g a.i./ha， $\mu\text{g/kg}$  など

物質：mol (モル)

エネルギー量：cal (カロリー)，J (ジュール)，erg (エルグ)，eV (エレクトロンボルト)

力：N (ニュートン)，dyn (ダイン)，S (svdberg)，F (ファラッド)

圧力：mmHg (水銀柱ミリメートル)，torr，atm (気圧)，Pa (パスカル)

電気および磁気：V (ボルト)，W (ワット)，A (アンペア)， $\Omega$  (オーム)，C (クーロン)，G (ガウス)

放射能：Bq (ベクレル)，cpm (counts per minute)

回転数，周波数：rpm (revolutions per minute)，Hz (ヘルツ)

角度： $^{\circ}$  (度)，radian (ラジアン)

その他の記号および記載は次の例によること。

$\text{Na}^+$ ， $\text{Cl}^-$ ， $\text{Mg}^{2+}$ ， $\text{SO}_4^{2-}$ ，mp，bp  $72^{\circ}\text{C}$  (4 mmHg)， $t_R$  (保持時間)， $d$  (密度)， $c$  (濃度)， $S_{20,w}$  (沈降係数)， $n_D^{20}$  (屈折率)， $E$ ， $E_0$  (吸光係数)， $\text{LD}_{50}$ ， $\text{LC}_{50}$ ， $\text{KT}_{50}$ ， $I_{50}$ ，TLm， $\text{ED}_{50}$ ，pH，fp (凝固点)，vp (蒸気圧)， $\text{pK}_a$ ， $\text{pK}_1$ ， $R_f$ ， $K_m$ ， $\text{OD}_{280}$ ，ppm，ppb，ppt，

eq (当量), TLC, HPLC, GC, GC-MS

(17) 分析値の記載はできるだけ実験方法 (Materials and Methods) で行うこと。測定法の略称, 測定単位, 測定値, 帰属などを盛り込んで以下のように簡潔に記載すること。

$[\alpha]_D^{20} +30^\circ$  (c 1.0,  $\text{CDCl}_3$ )

UV  $\lambda_{\text{max}}$  (EtOH) nm ( $\epsilon$ ): 246 (11,000), 296 (8250)

IR  $\nu_{\text{max}}$  (nujol)  $\text{cm}^{-1}$ : 1764 (C=O), 1638 (O-C=O)

$^1\text{H NMR}$   $\delta_{\text{H}}$  ( $\text{CDCl}_3$ ): 1.34 (3H, t,  $J=7.2$  Hz,  $\text{CH}_3\text{CH}_2\text{O}$ ), 4.26 (2H, bs,  $\text{NH}_2$ )

$^{13}\text{C NMR}$   $\delta_{\text{C}}$  ( $\text{C}_6\text{D}_6$ ): 218.6, 165.4, 67.8

$\delta$  を用いて化学シフトを示す場合は,  $\delta_{\text{H}}$ ,  $\delta_{\text{C}}$  のように測定核種を明示すること。ただし, 紛らわしくない場合は単に  $\delta$  のみでもよい。

ORD (c 0.124, MeOH)  $[\alpha]^{31}(\text{nm})$ :  $-20^\circ$  (578),  $-42^\circ$  (360)

X-ray  $2\theta_{\text{Cu-K}\alpha}$ :  $16.8^\circ$  ( $d=4.62$  Å),  $22.0^\circ$  ( $d=\dots$ )

MS  $m/z$  (%): 156 (12)  $\text{M}^+$ , 141 (17)  $[\text{M}-\text{CH}_3]^+$ . EIMS, CIMS, FABMS などイオン化条件を含めてもよい。

HRMS  $m/z$  ( $\text{M}^+$ ): Calcd. for  $\text{C}_{20}\text{H}_{29}\text{N}_3\text{O}_3$ : 359.2209, Found: 359.2195

元素分析値 Found: C, 48.23; H, 6.17; N, 26.55%. Calcd. for  $\text{C}_{17}\text{H}_{26}\text{N}_8\text{O}_5$ : C, 48.33; H, 6.20; N, 26.53% のように記すこと。

(18) 標識化合物の表示は下記の例にならないローマン体文字を使用し, 位置を表示する場合は [ ] に位置と核種を指定する。

[carbonyl- $^{14}\text{C}$ ]acetone, [ring- $^{14}\text{C}$ ]phenylalanine, [U- $^{14}\text{C}$ ]aniline, L-[2,3- $^3\text{H}$ ]alanine,  $^{14}\text{CO}_2$ ,  $^{14}\text{C}$ -ribosome,  $^{32}\text{P}$ -labeled

(19) 大きい数を書くときは, たとえば 86,547,300 のように数字を 3 桁ごとにコンマをつけ区切ること。ただし, 4 桁の場合は 5490 のように 3 桁目にコンマを入れない。また, ページ数, 特許番号のような文献中の数字にはコンマを入れない。その他の数量の記載は次の例による。

0.3–0.5 g,  $4.5 \times 21$  cm,  $6.02 \times 10^{23}$

数量を示す数が文章の先頭にくるときはアラビア数字をつかわないこと。本文中では零は 0 と書かずに zero とすること。

(20) 無機化合物および有機化合物の命名法は, IUPAC のルールに従う。

化合物の名称で, allo, bis, cyclo, des, etio, homo, iso, neo, pseudo 等は名称の一部とみなし, 印刷字体はローマンとし, ハイフンを使わず原化合物名に直結する。o (ortho), m (meta), p (para), n (normal), sec (secondary), tert (tertiary), cis, trans, gauche, erythro, threo, syn, anti, また光学的活性, 不活性を示す d (dextro), l (laevo), dl (racemic), i (inactive) などはイタリックとし, 置換体を示す N, O, C などもイタリックを用いる。糖類およびアミノ酸等の立体配置の系統を示すためには D, L (小 cap.) および DL (小 cap.) を, 絶対配置には (R), (S) を, 幾何異性には (E), (Z) を使用すること。

(21) 簡単な慣用溶媒, 試薬および無機化合物は, たとえば次のように表示してもよい。ただし同一物質の表示に際して分子式と物質名を混用してはならない。

MeOH, EtOH, AcOH, NaOH, HCl, PhCl. またアルキル基, アリール基は R, Ar と表示してもよい。

(22) 特別な場合を除いては, (16) の数量単位記号, (17) の略称および Expt. (Experiment), Fig. (Figure), Eq. (Equation) などの略字を本文中に用いることができる。

(23) 略号は次のように書くこと。

et al., i.e., e.g., in vacuo, etc., viz., in vitro, in vivo, via, de novo, ca., max, min, mol. wt., No., fraction No., conc. (concentration は全綴り), dil., abs., aq., anhyd., Figs. 1 and 2, Eq.

(24) 遺伝子などの DNA 塩基配列データに関しては, データベース登録番号 (DDBJ/EMBL/Genbank Acc. No.) を明記する。また, たんぱく質の X 線結晶構造解析の原子座標データについても, PDB, CCDC 等のデータベース登録番号を明記する。

(25) 執筆倫理: 著者が, 同じ内容の研究成果を複数の学術誌に投稿することは, 許されない。即ち, 過去に発表された原稿, 投稿時に既に他の学術誌に投稿している原稿の投稿は許されない。また原稿投稿後は, 日本農薬学会誌編集事務局による掲載に関する決定の前に, 同じ原稿を他へ投稿してはならない。なお, 却下された論文または取り下げた原稿を再投稿することは差し支えない。

(26) 動物を用いた研究やヒトを対象にした研究では, 研究内容が倫理上問題のないものであることを cover letter に明記し, 確約すること。

(27) 不明な点は、次の日本農薬学会編集事務局に問い合わせること。

〒606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町

京都大学 大学院農学研究科内

E-mail: [jps-jimu@kais.kyoto-u.ac.jp](mailto:jps-jimu@kais.kyoto-u.ac.jp)